

茨城県図画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践研究報告（令和1年8月）

研究テーマ	発想や構想の力を高め、抽象的に表現する力を伸ばす美術指導のあり方 ～第1学年「ゼンタングルで想像の世界を表現しよう」の実践を通して～
-------	-----------------------------------------------------------------------

八千代町立下結城小学校・下妻市立下妻中学校 教諭：

I 研究テーマについて

「抽象絵画」の制作では、偶然できる形や色に面白さを見い出し、表現の一部に取り入れることができるので、絵の「得意」「不得意」を意識せずに自分なりの制作をしていくことができる。絵を描いた経験の少ない生徒でも夢中になって取り組み、満足感が得られるだろう。授業の展開を工夫することで、下位の生徒でも自信をもって他の生徒と作品を通じたコミュニケーションを取りやすくなる。

今回は「誰でも簡単にできる描き方」の宣伝を見かけることがあったので、「ゼンタングルアート」を題材に取り入れた。自分の絵があまり褒められた経験がない生徒も「すごいね」「いいね」と他者に認められることで、美術を愛好する心が養われることを期待している。また、他の抽象作品への興味が高まり、今後の鑑賞や創作活動に生かせることも期待し、本テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 「ゼンタングルで想像の世界を表現しよう」

2 題材の目標

- ゼンタングルアートの表現技法に関心を持ち、自分のねらいを明確にし、計画的に制作しようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- 自分のイメージをもとに構想を練り、様々な材料や技法を用いて独自性のあるゼンタングルアートの構想を練ることができる。
(発想・構想の能力)
- 技法を生かして独自の方法で自分の思いを表現することができる。
(発想・構想の能力)
- 自他の作品の良さや美しさを認め合い、自分の作品に愛着をもつことができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

1年生は今年度、アクリル絵の具による風景画制作やパステルによる静物画制作を体験し、意欲的に取り組んだ。写実的な表現の作品への憧れが強く、理想の作品と自分の作品とのギャップで創作意欲を低下させてしまう生徒が見られた。色の基本、レタリング、創作絵文字の制作も経験している。偶然できる形や抽象的な作品を制作した経験はまだない。

(2) 題材感

制作にはゼンタングルアートの技法書から、植物や生物がイメージできそうな項目をお手本として用意し練習をする。似た雰囲気の絵柄や技法は避け、1~2種類の技法を3回の練習で使用する。鉛筆とサインペンを使用し、練習の後にはオリジナルの小作品を制作する時間を設け互いに鑑賞し合う。まとめの作品制作では、ケント紙を使用し、今までの学習を振り返り、自分のイメージに合う技法と画面構成を工夫して組合せられるように支援する。偶然できる形もあるが、自分の構想を大切に制作できるように助言する。

(3) 指導観

絵画には目に見える物を写実的に表現する活動だけでなく、目に見えない抽象的なものを表現している作品も多くあることに気づかせたい。音楽や雰囲気、感情などを形の無いものを表現する方法に抽象的な表現の作品があることを鑑賞教材を準備して学ばせる。集団での交流からキーワードとなる言葉をたくさん集めさせたい。

クロッキー帳を使用しているが、練習と応用の記録を集積し、作品制作に有効活用できるようする。

4 題材の評価規準

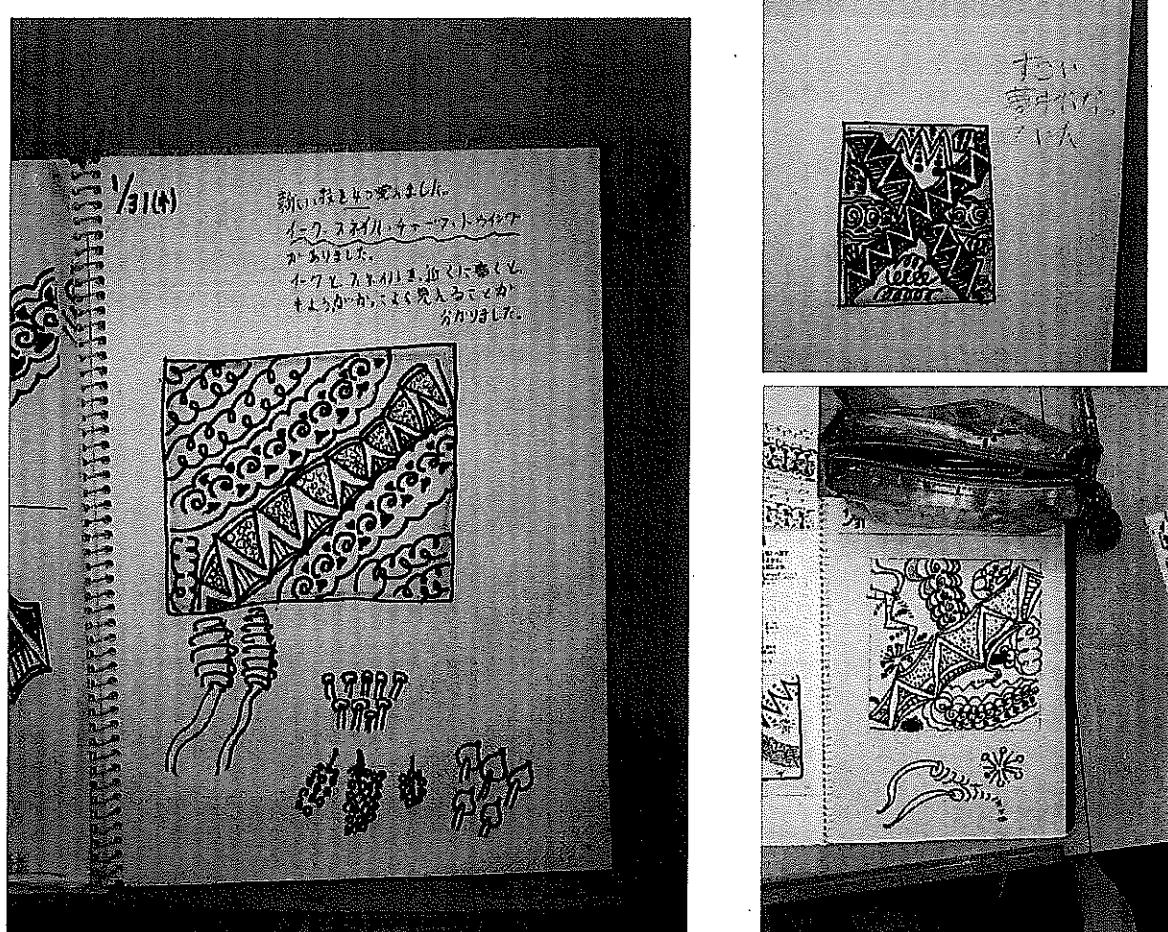
美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
技法や表現を創意工夫し、意欲をもって制作に取り組もうとする。	自分のイメージを膨らませ構想を練ることができます。	材料や技法を工夫し、自分の想像する世界を抽象的な絵柄で表現することができます。	抽象的な作品の制作経験を生かし、抽象作品の良さを味わうことができる。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

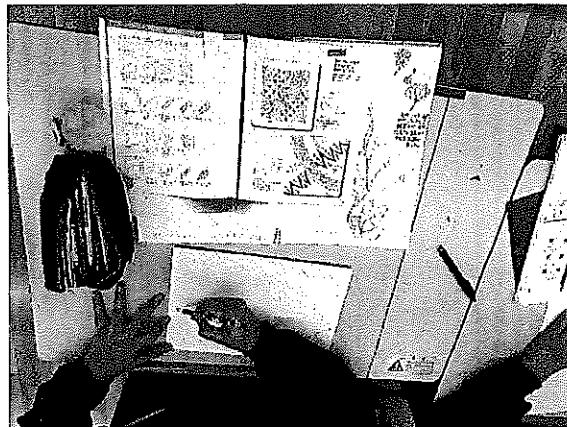
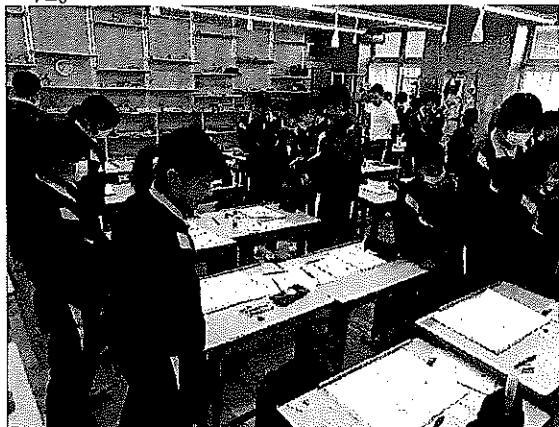
次 時	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
1 1	○今後の活動について確認をする。 ○抽象絵画の作品を鑑賞し、単元の見通しをもつ。	・題材について理解し、制作活動への意欲を高めようとしている。 発 【ワークシート・生徒観察】
2 1 2 3	○ゼンタングルアートの技法を練習し、画面構成や図柄の作り方について学ぶ。	・表現技法の特性を理解し、効果的に生かしながら制作することができたか。 技 【ワークシート】
3 1 2 3	○自分の想像する世界の構想を練り、アイデアスケッチをする。	・これまでに制作した練習作品を見直し、自分のイメージに合う技法を組み合わせて表現することができる。 発 【クロッキー帳、ケント紙】
	○今までの練習を生かし、自分の考えた想像の世界をゼンタングルアートを用いて表現する。	
4 1	○制作した作品を互いに鑑賞し、表現の工夫や良さについて意見を交流する。	・友達の感じた風景の良さや表現の工夫を感じ取り、写真とは異なる絵画表現のよさを味わっている。 鑑 【ワークシート・生徒観察】

6 指導の実際

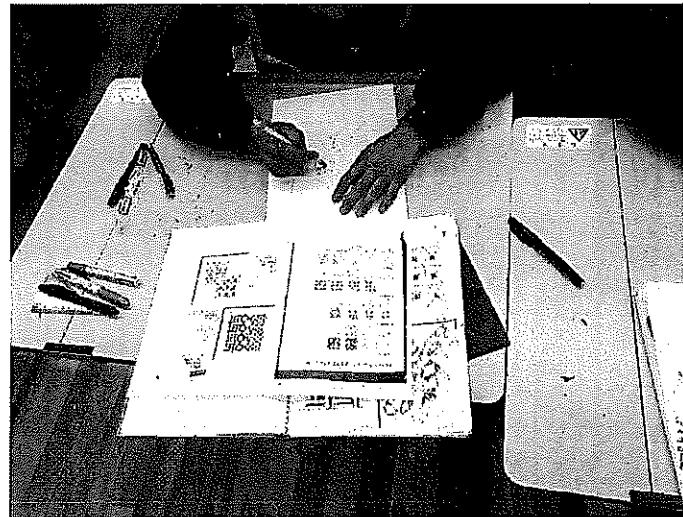
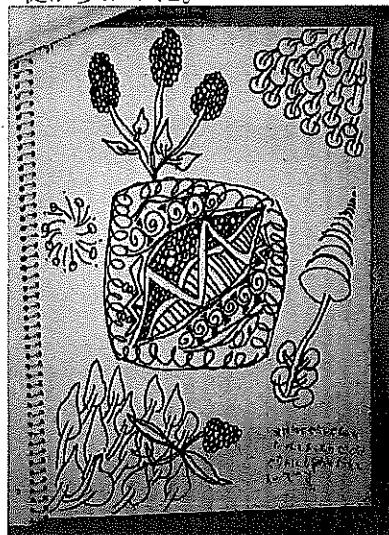
繰り返し単純な图形などを描くことで模様ができてくることに興味を持ち、意欲的に練習に取り組む生徒が多かった。お手本や見本を書き写す「練習」には苦手意識が見られない。



練習を繰り返す内に、組合せ方を工夫することや、完成のイメージを持って作品制作をする生徒も出てきた。授業の感想、気付いたことをまとめ、他の生徒作品を鑑賞する時間を設けた。同じ模様のパーツでも組合せ方に個人差があることに気付き、次の授業への意欲が高まった生徒が多かつた。



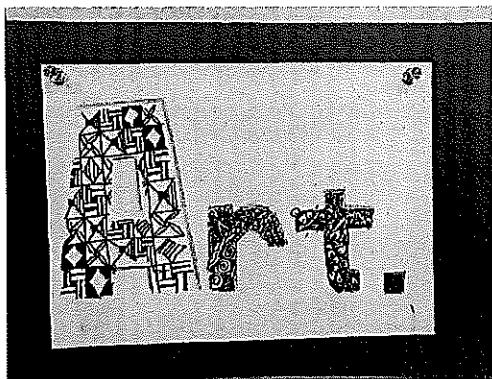
3次になると、お手本の「模写」や「偶然できる形を楽しむ」ことができた生徒でも、偶然でき形からも「自分の世界観を構想する」「作品のテーマをもつ」ことは難しいらしく、考え込む生徒が多かつた。



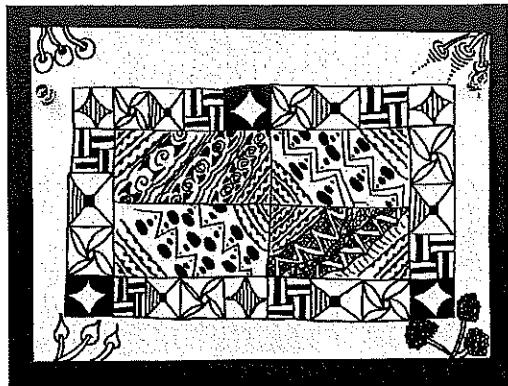
III 成果と課題

① 成果

- ・抽象表現の活動を短時間で体験することができた。
- ・ほとんどの生徒が、言葉にすると「植物っぽい」「生き物っぽい」「タイルの模様っぽい」などのイラストまたは模様を自分なりに描くことができるようになった。
- ・絵が苦手な生徒にとっては自分の作品を周りの生徒と同じように完成させられたことで、自信と満足感を感じることができていた。
- ・何も描けず白紙になりそうな生徒には、お手本の模写でもいい等と課題を設定することで、作品を制作することができた。また、手元に作品があることで、話し合い活動に参加することにも抵抗感が少なかつた。
- ・絵画制作を好む生徒、上手な生徒は、模様の組合せ方や構図の工夫による画面変化を楽しみ、互いに切磋琢磨する様子が見られた。
- ・鉛筆とペンがあれば作品ができるので準備が簡単。



生徒作品



②課題

- ・授業のねらいと評価方法をはつきりさせておかないと生徒の満足感が高いため苦しむことになる。
- ・学んだ技法で「グリーティングカードをつくろう」等の応用ができるだろう。
- ・細かな作業が苦手な生徒には「模様の部品を大きく描こう」「繰り返す数を少なくしてもいいよ」等と声かけをしたが厳しい表情の生徒もいた。
- ・今回は第1学年での授業を設定した。単発で終わらず、2年生や3年生で、学習した様々な技法の中から生徒が自分で技法、画材を選択して作品制作ができる授業、教材の工夫ができるのではないだろうか。
- ・バックやTシャツなどの模様として実際に使われている様子を鑑賞で取り入れられるのではないか。



生徒作品

参考資料

・「ペン1本で心が落ち着くゼンタングル描き込みBOOK」著 ダヌコンダ真理
発行 株式会社 翔泳社

・「はじめてのゼンタングル」著 さとう いずみ
発行 自由国民社